

吉野谷村中宮における出作りの分布

小川 弘 司 石川県白山自然保護センター

DISTRIBUTION OF DEZUKURI AT CHUGU, YOSHINODANI VILLAGE

Hiroshi OGAWA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

はじめに

母村を離れ、山中に住居を構え、焼畑や炭焼き・養蚕を営む出作りは、白山麓に発達した独特の生活形態であった。田中・幸田(1927)によれば、明治43年(1910)頃の石川県・福井県の白山麓に広がる出作り戸数は約780戸に及ぶ。その生活形態は、大正年間を経て、昭和に入り戦後も維持されてきたが、昭和30年代の高度経済成長とともに急速に衰退した。現在、出作りを営む人はほとんどみられなくなった。この出作りについては多くの研究があるが、中心地の白峰村の出作りを主としたものが多く(例えば幸田, 1956; 石川県白山自然保護センター, 1988; Park *et al.*, 1999), 吉野谷村での出作りについては十分に行われていなかった。

本稿では、吉野谷村において出作りが盛んに行われていた中宮の出作りについて、その分布等について調査を行ったので報告する。

地域の概要と調査の方法

吉野谷村中宮集落は、手取川支流の尾添川右岸部に発達した河岸段丘上に立地している(図1)。背後(北側)は1,000m級の山々に囲まれ、中宮地区としては、上流部の雄谷や蛇谷を含み、広大な山間後背地を抱えている。この山間地を利用して出作りが行われていた。中宮は白山本宮(現在の白山比咩神社)から白山山頂へ続く加賀禅定道の通り道にあたり、かつては集落東端の「笥笠中宮神社」を中心に白山信仰の重要拠点として古くから栄えたとされる歴史のある集落である。「中宮」の語源は、白山



写真1 中宮の出作り小屋(昭和33年11月撮影)
図1・表1の番号54の出作り小屋。季節・通り出作りの小屋として利用。現在は、屋根がトタン葺きとなっているが現存している。写真提供:不破幹夫氏

山頂の奥宮と鶴来町の白山比咩神社との間に位置することから「中宮」の名が伝えられている。

調査は、集落在住の出作り情報所有者への聞き取りによって行った。出作り地の位置を1/5,000森林基本図に記し、その居住者を明らかにすることを基本に、出作りの居住形態(永久出作り、季節出作り、通り出作り¹⁾)、出作りを始めた年、止めた年、現在の居住地等についてできる限り聞き取りを行った。なお、正確な情報を得るために、聞き取りは原則二人の方から同時にお話しを聞き互いに情報を確認しながら行った。

中宮での出作り

調査の結果、73か所の出作り地についてその分布地(図1)及び各か所ごとの居住形態等の調査項目

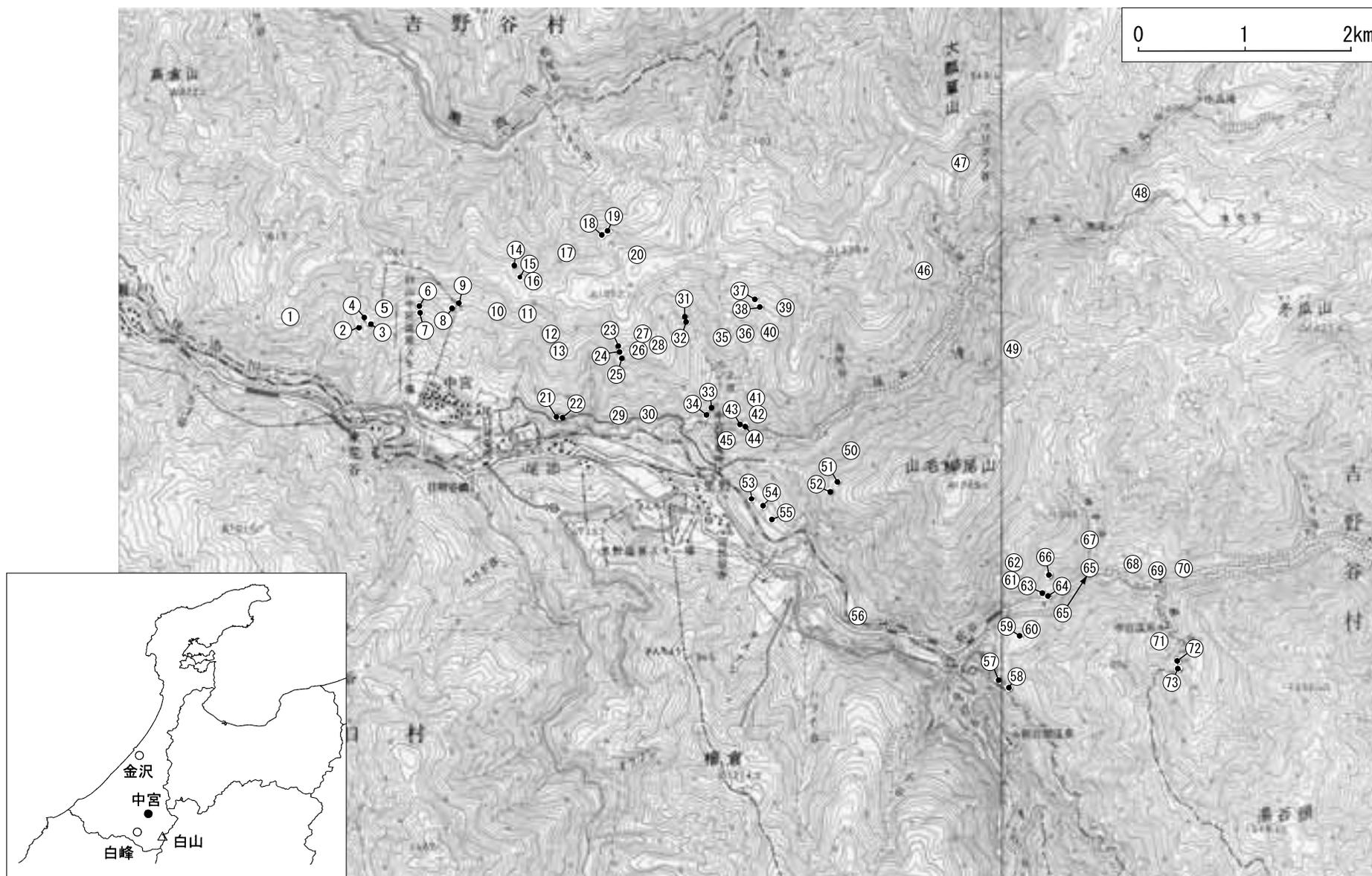


図1 吉野谷村中宮の出作り地分布
 図中の番号は、表1の番号と一致する。国土地理院発行2万5000分の1地形図「市原」,「中宮温泉」使用。

小川：吉野谷村中宮における出作りの分布

表 1 吉野谷村中宮の出作り地一覧

| NO. | 屋号 | 出作り形態 | 土地所有 | いつから | いつまで | 現在の居住地 | 備考 |
|-----|-------------|-------|------|-------------|----------------------------|-------------|---------------------------|
| 1 | セイタ | 季節 | 自作 | 大正初期 | 昭和25、6年 | 中宮 | |
| 2 | チョウマ | 季節 | 自作 | - | 昭和30年頃 | 中宮 | |
| 3 | シロ | 季節 通い | 自作 | 大正初期 | 昭和40年 | 金沢市 | |
| 4 | コザエモン | 通い | 自作 | - | 昭和30年頃 | 中宮 | |
| 5 | イサ | 季節 | 自作 | 昭和初期 | 昭和37、8年 | 中宮 | |
| 6 | チョウハチ | 季節 | 自作 | 昭和初期 | 昭和35、6年 | 鶴来町 | |
| 7 | タイチャトコ | 季節 通い | 自作 | 昭和25年頃 | 昭和30年頃(季節)/ 昭和44、5年(通い) | 鶴来町 | 73から移動 |
| 8 | チョウベエサン | 季節 | 年季 | 昭和17年頃 | 昭和30年頃 | 廃絶 | |
| 9 | スワトコ | 季節 | 年季 | 昭和17、8年 | 昭和22年頃 | 中宮 | 45へ移動 |
| 10 | チョウベエチョウ | 季節 | 自作 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 廃絶 | |
| 11 | ロク | 季節 | 自作 | 昭和22、3年 | 昭和30年頃 | 金沢市 | 33へ移動 |
| 12 | マンタロウ | 季節 | 自作 | 昭和15、6年 | 昭和22年 | 金沢市 | 26へ移動 |
| 13 | ジロモ | 季節 | 自作 | - | 昭和27年 | 中宮 | |
| 14 | キンマ | 季節 | 自作 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 野々市町 | |
| 15 | サンスケニサオジ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 中宮 | |
| 16 | チュウサク | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 鶴来町 | |
| 17 | ゴンスケ | 季節 | 年季 | 昭和10年頃 | 昭和30年頃 | 鶴来町 | |
| 18 | スエオジ | 季節 | 年季 | 昭和12、3年 | 昭和30年頃 | 鶴来町 | |
| 19 | ショウノニサオジ | 季節 | 年季 | 昭和17年頃 | 昭和30年頃 | 野々市町 | |
| 20 | サダオジ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 金沢市 | |
| 21 | タスケ | 通い | 自作 | - | 平成12年 | 金沢市 | 稲作 / 100年以上の歴史あり / 小屋現存 |
| 22 | タイモ | 季節 通い | 自作 | - | 昭和46年 | 中宮 | 稲作 / はじまりは大正末 - 昭和初頭 |
| 23 | セシロウ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和27、8年 | 鶴来町 | 日当たりがよく土地が肥えている。その分面積が狭い。 |
| 24 | タザエモンサンキチオジ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和27、8年 | 金沢市 | " |
| 25 | チョンゴロウイチ | 季節 | 年季 | 昭和14年 | 昭和17、8年 | 鶴来町 | " |
| 26 | マンタロウ | 季節 | 自作 | 昭和22年頃 | 昭和30年頃 | 金沢市 | " |
| 27 | キタロウ | 季節 | 自作 | 昭和22、3年 | 昭和30年頃 | 金沢市 | |
| 28 | タザエモン | 季節 | 自作 | 昭和15、6年 | 昭和27、8年 | 中宮 | |
| 29 | イサノオジ | 季節 | 自作 | - | 昭和30年頃 | 金沢市 | 稲作 |
| 30 | マタジロウノオジ | 季節 | 自作 | - | 昭和44、5年 | 県外 | 稲作 |
| 31 | ヒガシショウノ | 季節 | 年季 | 昭和18年 | 昭和30年頃 | 鶴来町 | |
| 32 | ヨサハチ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和26年 | 中宮 | |
| 33 | ロク | 季節 | 自作 | 昭和27、8年 | 昭和44、5年 | 金沢市 | ほぼ稲作のみ |
| 34 | ヤスジロウ | 季節 | 自作 | - | 昭和44 - 48年 | 中宮 | 稲作 |
| 35 | ニョウモハチロウ | 季節 | 自作 | 昭和20 - 27年 | - | 金沢市 | |
| 36 | ゴンタ | 季節 | 年季 | - | 昭和31、2年 | 京都市 | |
| 37 | マツ | 季節 | 年季 | 昭和23年 | 昭和30年頃 | 鶴来町 | |
| 38 | サンマオジ | 季節 | 年季 | 大正 | 昭和22、3年 | 金沢市 | |
| 39 | タスケノオジ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和30年頃 | 小松 | 46から移動 |
| 40 | ショウノヨ | 季節 | 年季 | - | 昭和32、3年 | 鶴来町 | |
| 41 | マサ | 季節 | 年季 | 明治35、6年 | 明治末 | 金沢市 | 49へ移動 |
| 42 | ニオジ | 季節 | 年季 | 昭和初期 | 昭和14、5年 | 鶴来町 | |
| 43 | セスケ | 季節 | 年季 | - | 昭和35、6年 | 中宮 | |
| 44 | サンキチ | 季節 | - | - | 昭和26、7年 | 中宮 | |
| 45 | スワトコ | 季節 | 年季 | 昭和27、8年 | 昭和30年頃 | 中宮 | |
| 46 | タスケノオジ | 季節 | 年季 | - | 昭和18年 | 小松 | |
| 47 | チョンゴロウオジ | 季節 | 総山 | 明治末 or 大正初め | 大正時代 | 不明 | |
| 48 | マゴオジ | 季節 | 総山 | - | 昭和10年頃 | 廃絶 | ヒエ、アワの実入りが悪く麻を作って出荷 |
| 49 | マサ | 季節 | 総山 | - | 大正初め | 金沢市 | |
| 50 | ハッチョモ | 季節 | 年季 | - | 昭和23、4年 | 鶴来町 | |
| 51 | ショウスケ | 季節 | 自作 | - | 昭和10年頃 | 京都市 | |
| 52 | カンタ | 季節 | 自作 | - | 昭和30年頃 | 京都市 | |
| 53 | サブロウ | 季節 | 自作 | - | 昭和33、4年 | 鶴来町 | 稲作 |
| 54 | マタジロウ | 季節 通い | 自作 | - | 平成4、5年頃 | 中宮 | 稲作 / 小屋現存 |
| 55 | マタイモ | 季節 | 自作 | - | 昭和36、7年 | 中宮 | 小屋現存 |
| 56 | スエマツ | 季節 | 年季 | - | 昭和27、8年 | 廃絶 | |
| 57 | タイチャトコ | 季節 | 自作 | - | 戦前 | 鶴来町 | 73へ移動 |
| 58 | サンスケ | 季節 | 年季 | - | 戦前 | 金沢市 | 68へ移動 |
| 59 | サダ | 季節 | 自作 | - | 昭和33年頃 | 中宮 | |
| 60 | カンタイチ | 季節 | 年季 | - | 昭和35年頃 | 鶴来町 | |
| 61 | スエマツノオジ | 季節 | 年季 | 戦後 | 昭和27、8年 | 中宮 | 70へ移動 |
| 62 | ショウノイチ | 季節 | 年季 | - | 昭和30年頃 | 野々市町 or 鶴来町 | |
| 63 | マツ | 季節 | 自作 | 昭和初期 | 昭和47年 | 中宮 | 稲作 / 小屋現存 |
| 64 | ニシテノニョモ | 季節 | 自作 | - | 昭和47年頃 | 鶴来町 | 雪崩のため、狭い範囲で移動 / 稲作 |
| 65 | サダオジ | 炭焼き | 年季 | 昭和25年頃 | 昭和30年頃 | 金沢市 | 炭焼きのみ / 3年づつで場所移動 |
| 66 | タイモノジンタ | 季節 | 自作 | 昭和10年頃 | 昭和20年頃 | 鶴来町 | |
| 67 | チョンゴロウ | 季節 | 自作 | 戦前 | 昭和24、5年 | 野々市町 | 本村から離れ出作り地としては大変厳しい所 |
| 68 | チョンゴロウイチ | 季節 | 年季 | 昭和25年頃 | 昭和33年頃 | 鶴来町 | 25から移動 |
| 69 | ショゴロウ | 季節 | 年季 | - | 昭和34、5年 | 鶴来町 | |
| 70 | スエマツノオジ | 季節 | 年季 | 昭和27、8年 | 昭和35、6年 | 中宮 | 61から移動 |
| 71 | サクソウ | 季節 | 年季 | 昭和20年頃 | 昭和27年 | 京都市 | |
| 72 | ヨタオジ | 季節 | 年季 | 昭和22年頃 | 昭和25、6年 | 中宮 | |
| 73 | タイチャトコ | 季節 | 自作 | 昭和20年頃 | 昭和25年頃 | 鶴来町 | 7へ移動 |

表中の番号は、図1の番号と一致する。現在の居住地は、中宮に住宅があっても常住していない場合は、現在の居住地にはしていない。

について明らかにすることができた(表1)。出作り地は、同一人物が出作り地を移動した場合もあるが、その後別人が入った場合もあり、場所を重視して同一人物が場所を変え出作りした場合も別な番号で記載してある。分布の範囲は、集落背後の山間地から上流部の雄谷、蛇谷にかけて広がっていた。また、稜線を越えて瀬波地区の山にはいつている場合も見られ、かなり広範囲にわたり、出作り地が広がっていたことがわかる。以下、調査項目ごとの結果を記す。

居住形態は、季節出作りが67か所と圧倒的に多く、永久出作りは1か所もなかった。岩田(1986)により提示された昭和30年頃の出作り分布図には、尾添川流域のほとんどが季節出作りであり、この結果を裏付ける形となった。当地域の地質は堅く緻密な飛騨変成岩類や濃飛流紋岩類からなるため急峻な峡谷地形となり、規模の大きな出作りを行うための広い緩斜面の広がっている場所が少ない。このため、規模の大きな出作りが必要な永久出作りは発達しなかったと考えられる。土地所有は、年季35か所、自作34か所、総山3か所、不明1か所であった。年季と自作ではほぼ半数ずつを分け合った。年季とは借地のことで、地主との間で小作料金を決め、一定期間の土地を借り受けするものである。総山は村の共有地で行った出作りを指し、3か所の出作り地は雄谷の奥地のものであった。出作りを始めた年は、不明が29か所と一番多く、次に昭和20年代が24か所、昭和10年代が11か所と続く。戦前に始められたものが少ないが、おそらく不明なもの多くがこの時代以前のものと思われる。意外と多かったのは昭和20年代であり、その中でも昭和20年に始められたものが11か所あったことである。これはこの年の4月に中宮集落で大火があり、ほとんどの家屋が焼失したため、食糧不足を招いたことによる。出作りを止めた年は、昭和30年代が34か所と一番多く、次が昭和20年代の18か所で、戦後に出作りが衰退していったことがわかる。昭和40年代以降も続いている所も何か所か見受けられるが(10か所)、これは交通条件がよい場所に立地しているものがほとんどで、しかも出作りとしては特異な稲作を行っていた。多くは通い出作りとして維持されていたようである。

この出作りを始めた年と止めた年がわかっているものの期間の最短は3年であった。しかし、出作りで行われた焼畑は4、5年同じ場所で輪作を行うこ

とを原則としており、また聞き取りによる年代ははっきりとこの年と言い切れるものも少ない。そこで、原則5年同一場所で出作りを行ったと仮定し、かつ各か所で得られた個別情報をもとに、昭和25年頃の当地での出作りか所数を推察すると、45か所となった。昭和20年の中宮の戸数は97戸であるので(吉野谷村, 2002)、少なくとも中宮集落の約半数近くの人が出作りを行っていたと思われる。当時の秋祭りは、収穫前の9月10日前後に、お盆と合わせて1週間近く開催された。これは、夏には出作りで山中に生活する人が多かったために、この時期にずらして行われたそうである。このことから当地で出作り者が多数いたことが推測される。祭りの時は普通のヒエやアワではなく米が食べられ、毎日のように盆踊りが開催され、獅子舞も行われるなど集落全体で大変にぎわったそうである。

最後に、現在の本人又はその子孫の居住地についてであるが、出作り地を移動した人の重複を除けば、中宮20、鶴来町17、金沢市13、京都市4、野々市町3、小松市2、廃絶その他が7となった。現在も中宮に居住している人は3分の1以下と少なく、出作りが終了したからというわけではなく、中宮集落自体の過疎による集落転出の状況が伺い知れる。転出地としては鶴来町や金沢市が多いが、特異なものとして京都市があげられる。これは中宮の人々が明治から昭和の始めにかけて、農閑期の出稼ぎに京都へ行き、主に人力車の車夫として働いていた関係で京都市へ移り住んだ人がいたためである。

おわりに

吉野谷村中宮での出作り地について、分布を記すとともに、居住形態や出作りを始めた年、止めた年等について調べた結果を報告した。冒頭で述べたがこれら出作りは現在ほとんど行われておらず、中宮においても、出作り小屋が残っている(写真1)ものが数軒ある以外は、山中にその痕跡をほとんど認めることはない。しかもその経験者は高齢化し、その記憶を記録として残すには今のうちに行うことが必要である。この消え去ろうとする出作りを後世に伝えるために、今後も地道な調査の継続が望まれる。

注

1) 一般に出作りの居住形態は、1年を通して出作

り地に居住する場合を永久出作り，春から秋にかけて山中の出作り地で過ごす場合を季節出作り，長くても1週間程度の滞在あるいは母村から通う場合を通い出作りとして分類した。

謝 辞

本調査には以下の方々から情報や資料の提供をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。また，本調査は『吉野谷村村史 自然・生活文化・集落編』で行った調査をもとに，その後の調査成果を加えまとめたものである。調査の便宜を与えていただいた吉野谷村役場の皆様に感謝申し上げます。

佐々木武夫（昭和11年生）
西田太郎（昭和11年生）
外 一夫（昭和14年生）
三輪 幸男（昭和20年生）

文 献

- 石川県（1997）石川県史資料近代篇（24）. 25p.
石川県白山自然保護センター（1988）白山麓自然環境活用調査報告書．石川県白山自然保護センター，65p.
岩田憲二（1986）白山の出作り．石川県白山自然保護センター，白山の自然誌7，p5．
幸田清喜（1956）白峰の出作り。現代地理学講座第2巻，270-289，河出書房．
Park, S., Iwata, S. and Aniya, M(1999) Analyses of the natural environment and preferred sites of the Dezukuri and Their abandoning process in Shiramine, Japan, by geographic information systems and remote sensing. Science Reports of the Institute Geoscience, University of Tsukuba Section A, vol20 ,19-32．
田中啓爾・幸田清喜（1927）白山山麓に於ける出作り地帯（一）. 地理学評論，34，p20．
吉野谷村（2001）吉野谷村史 史料編 近現代編．p324．
吉野谷村（2002）吉野谷村史 自然・生活文化・集落編．p311．

